

小河里づくり計画



大歳神社

平成13年3月

小河里づくり協議会

目 次

I	地区の現況と目標	
(1)	地区の現況と課題	1 ~ 2 ページ
(2)	計画目標と方針	2
II	里づくり計画	
1	農業振興計画	
(1)	農産物直売所の設置検討	2
(2)	集落営農組織の検討	3
(3)	棚田の整備活用	3
(4)	学童体験農業の拡充	3
2	環境整備計画	
(1)	集会所の整備	3
(2)	生活道路・農道の整備	3
(3)	幹線道路の整備拡充	3
(4)	下水道の整備	3
(5)	大歳神社境内の活用	3
(6)	通学道路等の改善	4
(7)	秩序ある開発	4
(8)	地域づくり活動	4
3	土地利用計画	
(1)	農村用途区域の設定	4
(2)	個別的土地利用計画	4
4	景観の保全及び形成に関する計画	
(1)	農村景観	4 ~ 5
(2)	歴史的景観	5
5	計画地区と市街地との交流に関する計画	
(1)	沿道直売等を通じた交流計画	5
(2)	体験農業、観光農業等を通じた交流計画	5
(3)	自然生態系の保全・観賞	5

小河里づくり計画

I 地区の現況と目標

(1) 地区の現況と課題

- ① 計画対象地区は、平成11年2月27日に設立（市認定平成11年3月30日）された別図の小河里づくり協議会（小河集落）の区域とする。
- ② 北区山田町の西南端で、西区押部谷町木津に隣接する市街化調整区域に位置する。
- ③ 地区には大歳神社があってシンボルの大杉もあり、境内の一角には小河農村舞台が保存され、市民公園も整備されている。
- ④ 地区の西部を西神自動車道、市道西下木津線が、また、東西に市道水呑木津線が通過し、市中心部の三ノ宮まで車で約30分、唯一の公共交通機関として神戸電鉄粟生線の「木津駅」から徒歩15分の位置にある。
- ⑤ 1995年国勢調査及び農業センサスによれば
集落人口は191人、うち農家人口は118人と62%を占める。
総世帯数は38戸、うち農家戸数は24戸と全体の63%を占める。農家世帯の構成は、専業農家0戸、第1種兼業農家3戸（12.5%）、第2種兼業農家21戸（87.5%）となっている。
- ⑥ 農業経営は、1戸当たり平均59アールの農地を保有している。農業機械保有台数は、耕耘機32台、田植機20台の状況となっている。
- ⑦ 集落の農業生産についてみると、うるち米「キノヒカリ、ゴジヒカリ、秋田小町」、酒米「山田錦」、西瓜、南瓜、等があるが、大半が水稻である。
- ⑧ 地区の東部の丘陵地は民間企業が所有しており、住宅地の開発等が計画されている。集落環境の保全・整備を図るため、現段階から開発事業者と「秩序ある開発」について事前に調整を図っていく必要がある。
- ⑨ 歴史的景観を生かした、都市と農村との交流の場としての活用、観光農業・貸農園の整備拡充や、野菜直売所の増設等が課題である。

小河地区農業の概要 (農業センサス等)

	総世帯数 (戸)	総人口 (人)	専兼別農家数 (戸)				農家 人口 (人)	農業従事状態世帯員数(男)			農業従事状態世帯員数(女)		
			総農家数	専業	第1種 兼業	第2種 兼業		自家農業 のみ	自家農業 が主で、 兼業が従	自家農業 が従で、 兼業が主	自家農業 のみ	自家農業 が主で、 兼業が従	自家農業 が従で、 兼業が主
85年	36	151	28	2	-	26	129	8	-	30	19	-	11
90年	36	171	24	-	3	21	111	6	2	25	19	-	8
95年	38	191	24	-	3	21	118	6	7	22	21	-	5

	経営耕地面積 (a)				主要作物別収穫面積 (a)				家畜飼育戸数・頭数			
	合計	田	畑	樹園地	稲	野菜	花	飼料 作物	乳用牛 戸数	牛 頭数	肉用牛 戸数	牛 頭数
85年	1,501	1,362	135	4	1,315	78	-	-	-	-	-	-
90年	1,517	1,508	9	-	1,109	82	-	-	-	-	-	-
95年	1,416	1,413	3	-	1,109	47	-	35	-	-	-	-

(2) 計画目標と方針

地区は、都市近郊の自然環境に恵まれた閑静な地域に位置し、交通量の多い道路やアパート群と隔絶された静かな田園風景は、まさに「神戸の奥座敷」とも呼べるものである。加えて、広葉樹の多い里山や、「ほたる」の飛び交う美しい川、黄金色の稲穂の美しい棚田などの優れた自然景観を「大きな資産」として保全・活用していくことが大切である。

- ① 優れた自然環境と調和した生活・営農環境並びに快適居住空間の整備促進
- ② 都市住民等との豊かなふれあいとあじわいの場の整備・拡充を図る。
 - ・ ふれあい・里づくり拠点施設の整備
 - ・ 市民農園・農業体験・炭焼き体験の拡充
 - ・ 開発予定地域での「あじわいの里拠点施設」の立地及び農産物の供給策を検討

キャッチフレーズとしては

『ふれあいとあじわい、あいにきて小河（おうご）』

とする。

II 里づくり計画

1 農業振興計画

(I) 農産物直売所の設置検討

米の生産調整に対応し、既存の農産物直売所に加え、新たな直売所設置に向けて、地域の高齢者・婦人層を中心に新たな取り組みを検討する。

(2) 集落営農組織の検討

地区は、稲作経営が中心であり、農業機械の過剰投資が進行していることから、今後は、農業機械の更新を抑え、機械の共同利用・オペレーターの確保策及び、集落営農組織の設立を検討する。

(3) 棚田の整備活用

棚田を保全するため、棚田のオーナー制を検討し、田植・稲刈り・玄米の提供等を通して都市住民との交流を図る。

(4) 学童体験農業の拡充

大歳神社南方の棚田で、小学生を対象とした農業体験が実施されており、農業の重要性と自然環境との共存等を共同作業の中で学ぶなど重要な役割があるので、さらにこれの整備拡充を図っていく。

2 環境整備計画

(1) 集会所の整備

地区には、専用の集会所がなく、法性寺の集会所を活用しているため、新たに駐車場を兼ね備えた地域の拠点施設として、集会所の建設を検討する。

(2) 生活道路・農道の整備

1戸当たりの経営面積が少なく、諸般の事情からほ場整備の実施は難しい状況にあるので、地区の東部の丘陵地を所有する開発事業者との連携によって生活道路・農道・ため池等の整備拡充を検討する。

(3) 幹線道路の整備拡充

藍那地区への幹線道路（市道水呑木津線）が狭く大型バス等が通行できない状況にあるので、整備拡充を検討する。

(4) 下水道の整備

平成8年頃から合併浄化槽方式によって順次下水道整備を進めているが、その進捗（現在約15戸が整備済）が遅い状況にある。又、合併浄化槽からの排水処理が課題となっているので、道路側溝下への排水路の敷設等とあわせ、小河川（おごめ）の整備を市に要望する。

(5) 大歳神社境内の活用

当神社境内は、市民公園として整備されており、小河農村舞台も保存され、地区のシンボルである杉も大きく育ち快適な地域環境を保っている。今後は、小河農村舞台を活用させて、伝統的行事を伝承し、地域の活性化を図っていく。

(6) 通学道路等の改善

地区の小学校は藍那小学校となっており、朝は神戸電鉄「木津駅」から電車を利用して集団登校し、帰りは防犯のため主に母親が自家用車等で学校まで迎えに行っているのが現状となっている。この対策として道路整備を含め、送迎のあり方を検討する。

(7) 秩序ある開発

自然豊かな地域における民間による開発は、地域に新たな活力を生み出す可能性がある。このため、自然環境を破壊することなく、地域住民と調和した開発計画となるよう開発事業者に求めていく。

- ・ 無秩序な開発が行われると自然環境が破壊され、「ほたる」等が生息しなくなったり、自動車公害・事故が心配される。
- ・ 農村地域との交流施設の建設を求める。

(8) 地域づくり活動

毎年1月3日に開催される大歳神社の引目祭（お弓引き）のほか、9月には秋祭り（豊作祈願祭）が行われている。今後も、こうした伝統行事を継承していくために自治会・農会・婦人会・老人会等の活動をより一層活性化させる。

3 土地利用計画

秩序ある土地利用を計画的に進めるため、次の計画をたてる。

(1) 農村用途区域の設定

「農業保全区域」当面区域変更は計画しない。

「環境保全区域」当面区域変更は計画しない。

「集落居住区域」当面区域指定は計画しない。

「特定用途区域」当面区域指定は計画しない。

(2) 個別的土地利用計画

① 公共的施設用地

② 活性化のための施設用地

4 景観の保全及び形成に関する計画

(1) 農村景観

- ・ 自治会、老人会によって地域内道路・河川周辺・市民公園・農業用水路等のクリーン作戦を展開し、可能な場所への植樹や、農地（畦畔）・法面で花（ひまわり・コスモス）の栽培を検討する。

- ・ 里山の景観保全のため、都市住民等を対象とした里山オーナー制度を検討し、この中で炭焼き体験も実施する。

(2) 歴史的景観

大歳神社・小河農村舞台・経塚堂を歴史的文化財として守り、シンボルの大杉など農村風情のある集落景観を保全していく。

5 計画地区と市街地との交流に関する計画

(1) 沿道直売等を通じた交流計画

既存の簡易的な施設に加え、新たな直売所の開設や民間開発予定地域等での開設について検討する。

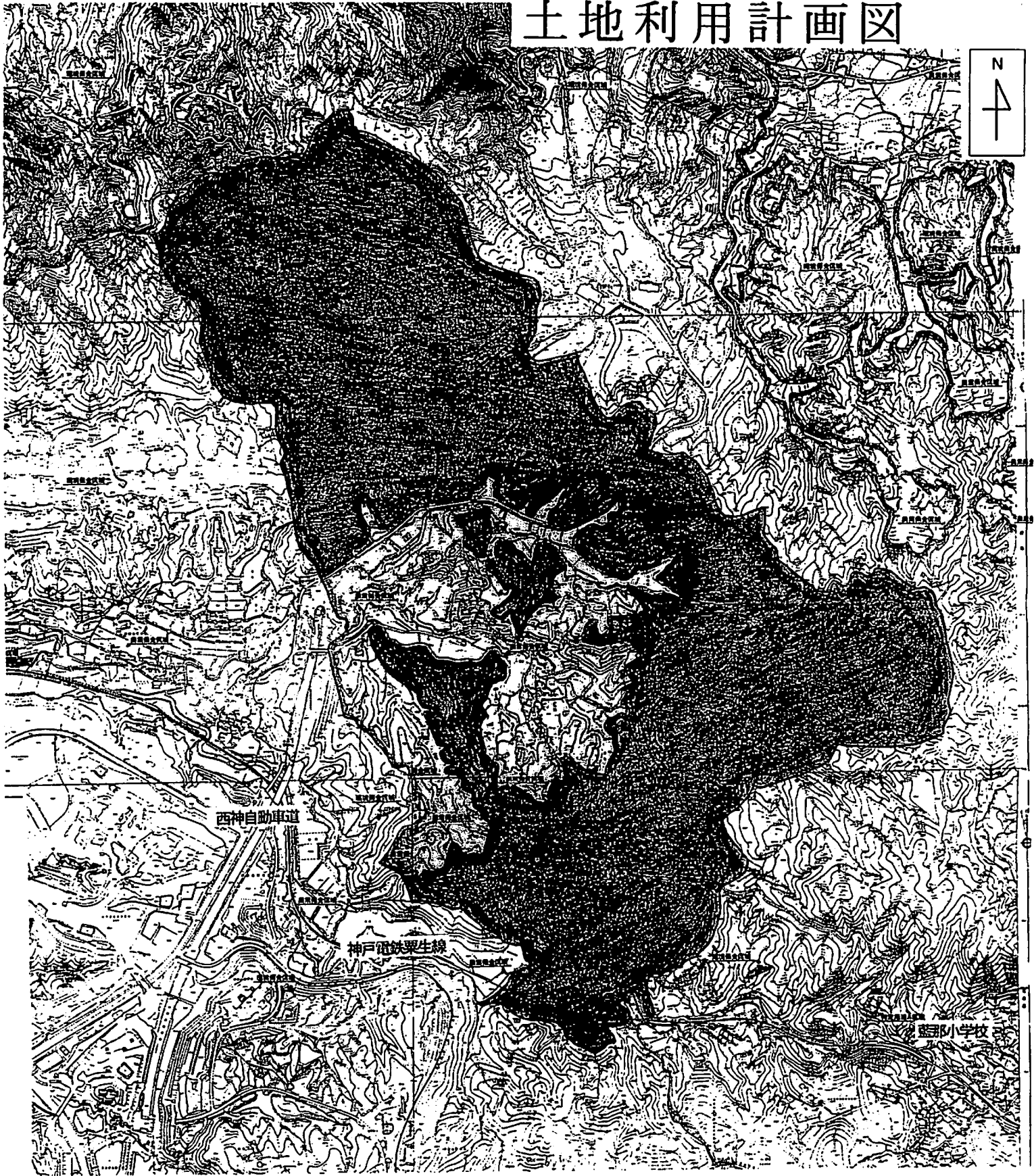
(2) 体験農業、観光農業等を通じた交流計画




都市住民を対象に体験農業、観光農業等の推進を図る。

(3) 自然生態系の保全・観賞

小河川で、めだか・どじょう・たにし・ほたるを見かけるようになりつつあるので、これを保全し、近い将来、昔ながらの自然を観賞できる場づくりを検討する。

小河里づくり協議会 土地利用計画図



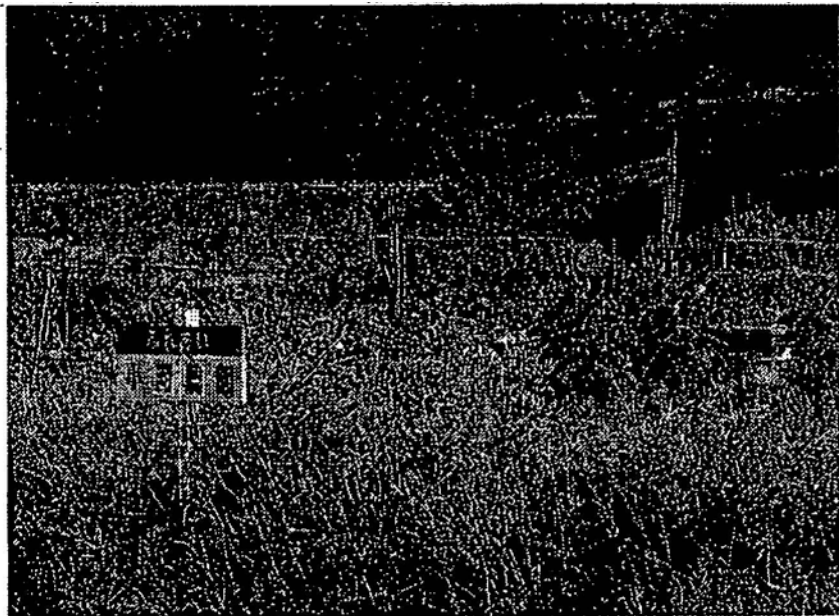
- 凡例
-  小河里づくり協議会区域
 -  震災保全区域
 -  環境保全区域



シンボルの大杉



小河集落風景



市民農園

小河里づくり計画策定経過

助言者：内田 一徳

年月日	実施内容	参集者
平成12年5月31日	・ 地域の現状把握について	協議会役員
平成12年6月27日	・ 里づくり計画策定事前調整会議	協議会役員
平成12年7月23日	内田教授を迎え里づくり計画策定に向けて活動開始 ・ 里づくり計画策定推進調整会議 集落の現状把握のため現地調査を実施 集落座談会の開催	協議会役員他
平成12年8月6日	・ 集落の現状 課題の整理 農業用水 区画整理	協議会役員他
平成12年9月8日	・ 集落の現状 課題の整理	協議会役員他
平成12年9月30日	・ 棚田に近い土地の活用	協議会役員他
平成12年11月25日	・ 里づくり計画の骨子 ・ 里づくり計画に関する提案	協議会役員他
平成13年1月8日	・ 里づくり計画(案案)の勉強会	協議会役員他
平成13年2月10日	・ 里づくり計画(案案)の検討	協議会役員他
平成13年3月10日	・ 里づくり協議会総会 里づくり計画の決定	協議会役員他